

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3207563号
(U3207563)

(45) 発行日 平成28年11月17日 (2016.11.17)

(24) 登録日 平成28年10月26日 (2016.10.26)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 5 B 27/00 (2006.01) A 4 5 B 27/00 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2016-4345 (U2016-4345)
(22) 出願日 平成28年9月6日 (2016.9.6)(73) 実用新案権者 508322543
株式会社村上鯉職商会
愛媛県四国中央市妻鳥町新浜 1 6 2 - 1
(74) 代理人 100142217
弁理士 小笠原 宜紀
(74) 代理人 100119367
弁理士 松島 理
(72) 考案者 村上 将士
愛媛県四国中央市妻鳥町新浜 1 6 2 - 1
株式会社村上鯉職商会内

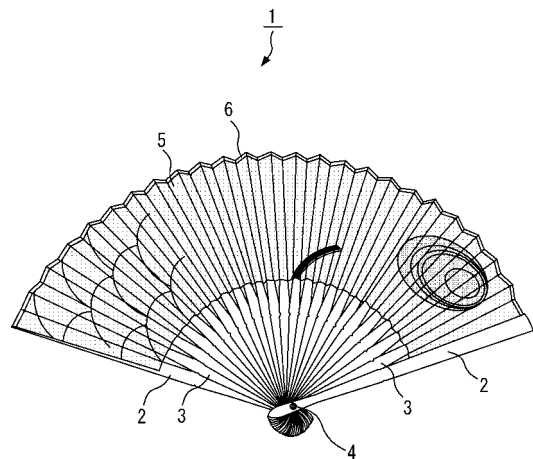
(54) 【考案の名称】 扇子及び扇子セット

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 子供の性別を問わず、誕生祝として、家族以外の複数の人から贈ることができ、また、大人に対しても、季節を問わず、新たな需要を喚起させることのできる扇子及び扇子セットを提供する。

【解決手段】 一对の親骨 2 と、一对の親骨 2 間に配置された複数本の中骨 3 と、一对の親骨 2 および複数本の中骨 3 の各基端部に貫通状態で設けられた要 4 と、全面に鯉のぼりの柄が配された扇状の布体が、一对の親骨 2 および複数本の中骨 3 に蛇腹状になるよう固着された屈折地膜 5 と、を備える。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

一対の親骨と、
前記一対の親骨間に配置された複数本の中骨と、
前記一対の親骨および前記複数本の中骨の各基端部に貫通状態で設けられた要と、
全面に鯉のぼりの柄が配された扇状の布体が、前記一対の親骨および前記複数の中骨に蛇腹状になるよう固着された屈折地膜と、
を備える扇子。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の扇子であって、
前記屈折地膜の布体は、鯉のぼりを製造するための生地から、扇状に切り取られてなる扇子。

10

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載の扇子を少なくとも一枚以上取り付け可能な取付台を備える扇子セット。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の扇子セットであって、さらに、
前記扇子と前記取付台とを覆う透明のカバーを備える扇子セット。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

20

【0001】

本考案は、扇子の地膜に鯉のぼりの生地を使用することで、例えば子供の誕生祝として贈ることができる扇子及び扇子セットに関する。

【背景技術】**【0002】**

西洋では古くから「銀のスプーンをくわえて産まれてきた子どもは幸せになる」という言い伝えがあり、近年、日本でも、友人の子供の誕生祝いなどに、銀のスプーンを贈る機会が増えてきている。一方、日本でも男の子の誕生祝いに、子供の健康と出世を願って鯉のぼりを贈る風習がある。

【0003】

30

しかしながら、鯉のぼりは、主に祖父母をはじめとした家族から贈ることが一般的であり、家族以外から贈る機会というのは稀であった。また、飾るスペースなどの問題や、子供一人に一つというイメージがあり、家族以外からは贈り難かった。さらにまた、日本では、鯉のぼりは男の子のお祝いのイメージが強いため、子供の性別が分からないと、鯉のぼりをモチーフにした製品を選ぶことができなかった。

【0004】

また、鯉のぼりの生地は、美しい光沢と、鮮明ながら自然な発色、しなやかさを備え、耐久性、耐光性、防水性、透浸性にも優れているが、そのモチーフや材質など、鯉のぼりの生地を生かした製品は少ない。高級感があり、品質の良い鯉のぼりの生地は、成人向けの製品としても、需要者を十分に満足させることができるものであるが、成人向けの製品

40

【0005】

一方、扇子は、涼を得る道具として古くから利用されており、外国人をはじめとする旅行者の土産としても人気がある。しかしながら、扇子は季節商品であり、暑い夏は需要があるが、夏以外の季節や冷夏の場合は需要が少ない。

【0006】

季節を問わず扇子を使用してもらう為の技術としては、例えば特許文献 1 の様に、部材を追加することで新たな機能を付与することができる扇子に関するものが開示されている。

【0007】

50

また、扇子を、壁や棚などに飾る装飾品として使用する場合には、比較的季節を問わず使用できるが、このような技術としては、例えば特許文献2のような、持ち運びに便利であるとともに、コストの増大を招くことなく、装飾に伴う外観品質の低下防止を図ることのできる扇子に関する技術が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0008】

【特許文献1】特開2015-198997号公報

【特許文献2】特許第4422120号公報

【考案の概要】

10

【考案が解決しようとする課題】

【0009】

しかしながら、従来の扇子に関する発明や考案は、機能面での改良ばかりであった。このような改良は、扇子を使用する習慣のない人の需要を喚起することは難しく、新たな需要者の開拓という面では効果が少ないという問題があった。

【0010】

本考案は、従来のこのような問題点に鑑みてなされたものである。本考案の目的の一は、子供の性別を問わず、誕生祝として、家族以外の複数の人から贈ることができ、また、大人に対しても、季節を問わず、新たな需要を喚起させることのできる扇子及び扇子セットを提供することにある。

20

【課題を解決するための手段及び考案の効果】

【0011】

本考案の第1の側面に係る扇子によれば、一对の親骨と、前記一对の親骨間に配置された複数本の中骨と、前記一对の親骨および前記複数本の中骨の各基端部に貫通状態で設けられた要と、全面に鯉のぼりの柄が配された扇状の布体が、前記一对の親骨および前記複数本の中骨に蛇腹状になるよう固着された屈折地膜と、を備えることができる。前記構成により、鯉のぼりの柄を、日本の伝統工芸品としても有名な扇子の地膜に使用することで、新たな需要を開拓することができる。例えば、鯉のぼりの様に、子供が健康に育ち、将来は大きく出世して欲しいという願いをこめて、誕生祝いなどとして贈ることができる。扇子は女性への贈答品として選択すると喜ばれることが多いため、扇子という物品の形態をとることで、男の子ばかりでなく、女の子の誕生祝としての需要も満たすことができる。このように、子供の性別が分からない場合の贈答品としてもよく、複数の人から貰ってもよいので、家族以外からでも気軽に贈ることができる。飾らない時は折り畳んで収納でき、飾るときも狭いスペースで飾ることができる。

30

【0012】

また、本考案の第2の側面に係る扇子によれば、さらに、前記屈折地膜の布体は、鯉のぼりを製造するための生地から、扇状に切り取られてなることができる。前記構成により、鯉のぼりを製造するための生地を新たな用途に使用できる。用途が多様化することで大量生産できるので、鯉のぼりも扇子も安価に製造できる。

【0013】

40

鯉のぼりの布は、高品質で、非常に美しいため、成人向けの製品として、例えば、就職や昇進の記念品としても、購入者自身が使用するものとしても、需要者を十分に満足させることができる。扇子も、鯉のぼりも、日本らしいものであるため、土産物としての需要をより高めることができる。贈答品や土産物、装飾品としての扇子は、季節を問わず販売することができる。

【0014】

さらにまた、本考案の第3の側面に係る扇子によれば、本考案の第1の側面に係る扇子又は本考案の第2の側面に係る扇子を少なくとも一枚以上取り付け可能な取付台を備えることができる。前記構成により、組物として取付台を備えることで、扇子と取付台が一体となり、扇子をより美しく飾り付けることができる。複数の扇子を並べて飾り付けること

50

で、見応えのある装飾品にすることができる。

【0015】

さらにまた、本考案の第4の側面に係る扇子によれば、前記扇子と前記取付台とを覆う透明のカバーを備えることができる。前記構成により、カバー付きのケースに入れることで、飾り付けや片付けが楽にできる。汚れや劣化を防止できるのできれいな状態を保つことができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本考案に係る扇子の全体構成を示す正面概略図である。

【図2】本考案に係る扇子の全体構成を示す背面概略図である。

【図3】本考案に係る扇子の全体構成を示す側面概略図である。

【図4】本考案に係る扇子の製造方法に関する図で、図4Aは親骨、図4Bは中骨、図4Cは組立断面図である。

【図5】本考案に係る扇子の製造方法に関する図で、図5Aは鯉のぼりの生地から切り出す様子、図5Bは扇子の仕上げの様子を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【0017】

以下、本考案の実施の形態を図面に基づいて説明する。ただし、以下に示す実施の形態は、本考案の技術思想を具体化するための例示であって、本考案は以下のものに特定されない。また、本明細書は実用新案登録請求の範囲に示される部材を、実施の形態の部材に特定するものでは決してない。特に実施の形態に記載されている構成部品の寸法、材質、形状、その相対的配置等は特に特定の記載がない限りは、本考案の範囲をそのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例にすぎない。なお、各図面が示す部材の大きさや位置関係等は、説明を明確にするため誇張していることがある。さらに以下の説明において、同一の名称、符号については同一もしくは同質の部材を示しており、詳細説明を適宜省略する。さらに、本考案を構成する各要素は、複数の要素を同一の部材で構成して一の部材で複数の要素を兼用する態様としてもよいし、逆に一の部材の機能を複数の部材で分担して実現することもできる。

(扇子1の構成)

【0018】

以下、本考案を適用した具体的な実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。本考案は、例えば図1に示すような構成の扇子1に適用される。図1乃至図3は、本考案に係る扇子1の全体構成を示す図であって、図1は正面概略図、図2は背面概略図、図3は側面概略図を示している。

【0019】

図1及び図2に示すように、本考案に係る扇子1は、比較的厚肉の一对の親骨2と、親骨2間に配置され、比較的薄肉の複数本の中骨3と、親骨2及び中骨3の各基端部21a、22a、31a～33aに貫通状態で設けられた要4と、鯉のぼりの柄が配された扇状の布体が、一对の親骨2および複数の中骨3に蛇腹状になるよう固着された屈折地膜5と、親骨2、及び、中骨3の各先端部21b、22b、31b～33bと、屈折地膜5の上部とを固着する天6とを主要部として備えている。また、扇子1は、責め紙を備えてもよい。

(親骨2)

【0020】

図2乃至図4に示すように、親骨2は、竹材からなり、側面視において、一方の面が平らな平面部を有し、背面視において、基端部21a、22aから先端部21b、22bに向かって広がる細長い棒状の部材である。親骨2は、二本を一对として使用され、一方の親骨21の平面部には、屈折地膜5の表面の一端が、他方の親骨22には、屈折地膜5の裏面の他端が、先端部21b、22bの端が揃うように取り付けられる。また、親骨2は、基端部21a、22aに要4を取り付けるための孔21c、22cを有しており、この

10

20

30

40

50

孔 2 1 c, 2 2 c に後述する要 4 を取り付けすることで、後述する複数の重ねられた中骨 3 の両端に、要 4 を支点として開閉自在に取り付けられる。親骨 2 は、木材など一般的に扇子 1 の材料に用いられるものであればよく、見栄えを良くするために装飾を施してもよい。

(中骨 3)

【0021】

中骨 3 は、竹材からなり、親骨 2 の間に挟まれ、地膜の裏面に取り付けられる部材である。

【0022】

中骨 3 は、背面視において、基端部 3 1 a ~ 3 3 a から先端部 3 1 b ~ 3 3 b に向かって幅が狭くなった細長い棒状で、側面視において、両面が平らな形状を有する。また、中骨 3 は、基端部 3 1 a ~ 3 3 a に要 4 を取り付けのための孔 3 1 c ~ 3 3 c を有しており、この孔 3 1 c ~ 3 3 c に後述する要 4 が取り付けられることで、親骨 2 と開閉自在に取り付けられる。親骨 2 同様、中骨 3 の材質は、木材など一般的に扇子 1 に用いられるものであればよく、見栄えを良くするために装飾を施してもよい。

(要 4)

【0023】

要 4 は、金属製の、要軸 4 1 と留め具 4 2 からなり、要軸 4 1 を親骨 2 1、中骨 3、親骨 2 2 の孔に順に通し、留め具 4 2 で固定することで、親骨 2 と中骨 3 を開閉自在に取り付ける。要 4 の材質は、プラスチック等でもよい。

(屈折地膜 5)

【0024】

図 1 及び図 2、図 5 に示すように、地膜は、ポリエステル製の鯉のぼりを製造するための生地 C L の絵柄部分を扇形に切り出したものである。屈折地膜 5 の両側部は、二本の親骨 2 の平面部に先端が揃うように固着されている。また、屈折地膜 5 は、蛇腹に折り畳まれ、非固着膜片 5 1 と固着膜片 5 2 とを交互に有しており、固着膜片 5 2 には、各中骨 3 の先端部 3 1 b ~ 3 3 b が固着されている。屈折地膜 5 に用いられる布は、ポリエステル、又は、ナイロンなどの鯉のぼりの絵柄の生地 C L である。屈折地膜 5 に用いられる布は、鯉のぼり製造用の生地 C L が好ましい。また、固着に用いる接着剤は、一般的な粘着剤であればよい。

(天 6)

【0025】

図 2 に示すように、天 6 は、親骨 2 及び中骨 3 の先端と、屈折地膜 5 の先端とを覆うように貼り付けられる紙で、親骨 2 及び中骨 3 と、屈折地膜 5 とを剥がれにくくすると共に、扇子 1 の先端を装飾する。

(責め紙)

【0026】

責め紙は、矩形状の紙の端を接着剤で留めた輪状の紙からなる、扇子 1 の形状保持具である。

(扇子セット 1 1)

【0027】

本考案に係る扇子セット 1 1 は、扇子 1 の基端部を差し込むための複数の孔を備えた木製の台に、複数の本考案に係る扇子 1 の基端部を、扇子 1 を開いた状態で差し込み、扇子 1 を飾った台を覆うようにプラスチック製のカバーを取り付けたものである。

(扇子 1 の製造方法)

【0028】

本考案を適用した扇子 1 の具体的な製造方法について、図面を参照しながら詳細に説明する。

【0029】

図 4 に示すように、よく乾燥した竹材を、親骨 2 は、側面視において、一方の面が平ら

10

20

30

40

50

な平面部を有し、背面視において、基端部 2 1 a, 2 2 a から先端部 2 1 b, 2 2 b に向かって広がる細長い棒状に加工する。中骨 3 は、側面視において、両面が平らな形状に、背面視において、基端部 3 1 a ~ 3 3 a から先端部 3 1 b ~ 3 3 b に向かって幅が狭くなる細長い棒状に加工する。親骨 2 及び中骨 3 は、布の下端位置で幅がかわるよう加工すると布の貼り合わせが容易である。細長い棒状に加工された親骨 2 及び中骨 3 の基端部 2 1 a, 2 2 a, 3 1 a ~ 3 3 a に孔 2 1 c, 2 2 c, 3 1 c ~ 3 3 c をあける。

【0030】

次に、23 本の中骨 3 を重ねあわせ、両端に、親骨 2 の平面部が中骨 3 の平面部と接するように重ね、親骨 2 及び中骨 3 の基端部の孔 2 1 c, 2 2 c, 3 1 c ~ 3 3 c に要軸 4 1 を通す。その後、要軸 4 1 に留め具 4 2 を固定する。

10

【0031】

続いて、親骨 2 及び中骨 3 の先端部 2 1 b, 2 2 b, 3 1 b ~ 3 3 b の上端から要 4 の長さの半径の半円と、親骨 2 及び中骨 3 の先端部 2 1 b, 2 2 b, 3 1 b ~ 3 3 b の下端から要 4 の長さの半径の半円とからなる扇状の型紙 P A を作る。布体を蛇腹折りする際の目印として、等間隔に 48 本の線を引く。

【0032】

次いで、図 5 に示すように、予め、糊付けし、乾燥させた後、アイロンをかけた、ポリエステル製の鯉のぼりを製造するための生地 C L の裏面に型紙 P A を当て、型紙 P A にあわせて、生地 C L に扇子 1 の外郭及び折線の印をつけ、外郭の印の約 1 c m 外側を裁断後、折り線にあわせて蛇腹になるように折り畳む。そして、扇面の両端は外郭ラインまで折り畳み、親骨 2 の半幅程度、外郭ラインの外側で切り落とす。扇面の下端は型紙 P A にあわせて切り落とす。

20

【0033】

次に、扇面の端が貼り合わせ面の内側に入るよう、外郭ラインにあわせて、粘着剤で親骨 2 の平面部に布を貼り付ける。端から順に、固着膜片 5 2 の幅の中央に中骨 3 を順に粘着剤で貼り付け、最後に（他方の）親骨 2 の平面部に、扇面の（他）端が貼り合わせ面の内側に入るよう、外郭ラインにあわせて、粘着剤で親骨 2 を貼り付ける。粘着剤が乾燥した後、親骨 2 及び中骨 3 の先端にあわせて布を裁断する。

【0034】

最後に、幅 6 m m 程度の伸縮自在な紙を、親骨 2 及び中骨 3 の先端と、屈折地膜 5 の先端とを包むように親骨 2 及び中骨 3 の先端にあわせて貼り付ける。

30

【0035】

以上説明したように、本考案に係る扇子 1 及び扇子セット 1 1 は、鯉のぼりの柄を、日本の伝統工芸品としても有名な扇子の地膜に使用することで、新たな需要を開拓することができる。例えば、鯉のぼりの様に、子供が健康に育ち、将来は大きく出世して欲しいという願いをこめて、誕生祝いなどとして贈ることができる。扇子は女性への贈答品として選択すると喜ばれることが多いため、扇子という物品の形態をとることで、男の子ばかりでなく、女の子の誕生祝としての需要も満たすことができる。このように、子供の性別が分からない場合の贈答品としてもよく、複数の人から貰ってもよいので、家族以外からでも気軽に贈ることができる。飾らない時は折り畳んで収納でき、飾るときも狭いスペースで飾ることができる。

40

【産業上の利用可能性】

【0036】

本考案の扇子及び扇子セットは、贈答品や土産物、装飾品として、好適に使用できる。

【符号の説明】

【0037】

1 … 扇子

2 … 親骨

2 1 … 親骨, 2 1 a … 基端部, 2 1 b … 先端部, 2 1 c … 孔, 2 2 … 親骨, 2 2 a … 基端部, 2 2 b … 先端部, 2 2 c … 孔

50

3 … 中骨

3 1 … 中骨, 3 1 a … 基端部, 3 1 b … 先端部, 3 1 c … 孔, 3 2 … 中骨, 3 2 a … 基端部, 3 2 b … 先端部, 3 2 c … 孔, 3 3 … 中骨, 3 3 a … 基端部, 3 3 b … 先端部, 3 3 c … 孔

4 … 要

4 1 … 要軸, 4 2 … 留め具

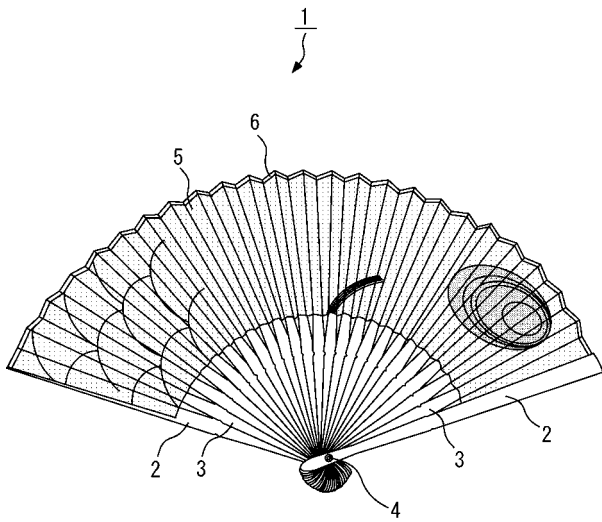
5 … 屈折地膜

5 1 … 非固着膜片, 5 2 … 固着膜片

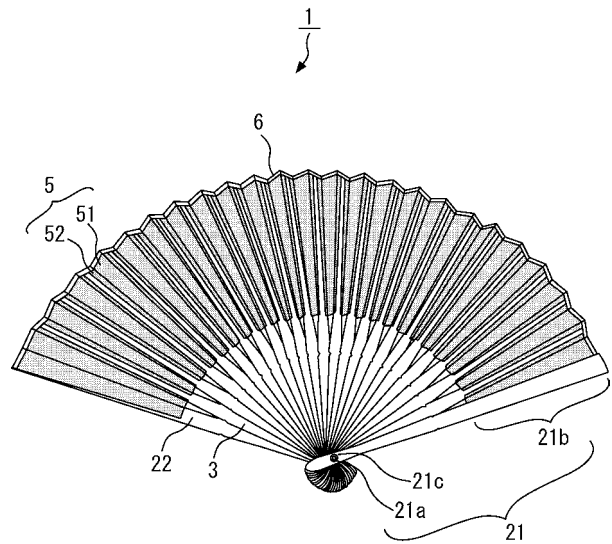
6 … 天

P A … 型紙, C L … 生地

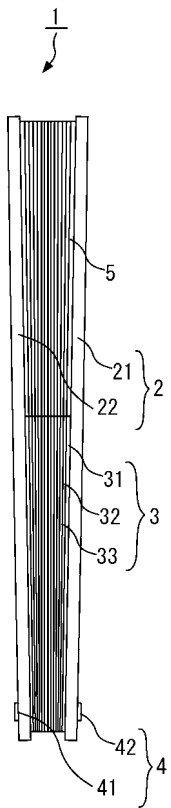
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

FIG. 4A

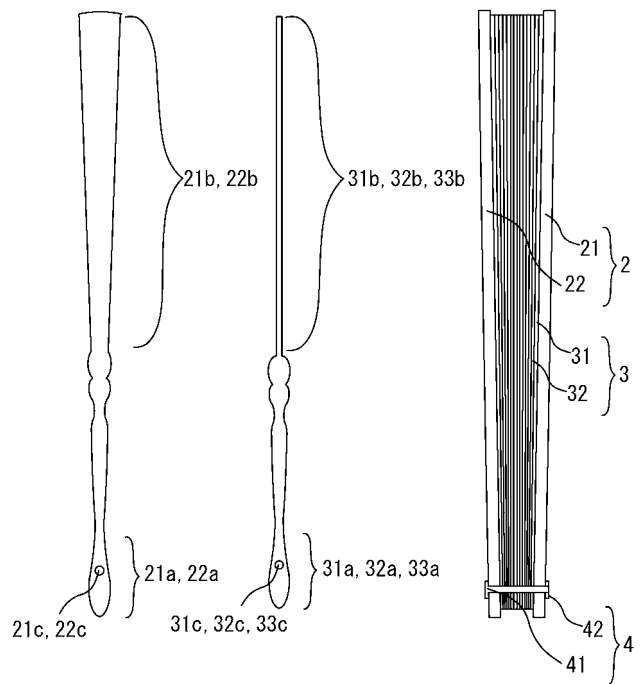
21

FIG. 4B

31

FIG. 4C

1



【図 5】

FIG. 5A

PA

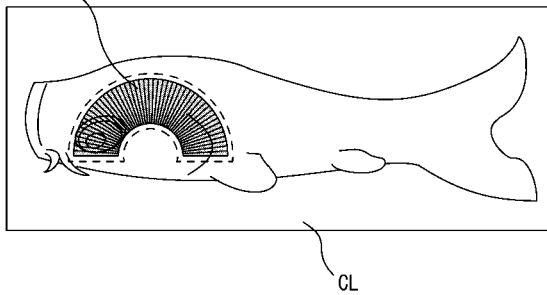


FIG. 5B

